

住信為替ニュース

THE SUMITOMO TRUST & BANKING CO., LTD FX NEWS

第1677号 2003年03月24日(月)

《 so far so good 》

今週は、株高、ドル高、石油安という大きなトレンドで動いてきた直近の市場トレンドの強さ、持続性を試すものとなる。このところの市場トレンドは、市場内部要因と戦争が確実になってから初期段階まで戦局の良さを背景としたもの。

しかしブッシュ大統領が「A campaign on harsh terrain in a vast country could be longer and more difficult than some have predicted」(週末のラジオ演説)と、またマイヤー統合参謀本部議長が「一番のヤマ場、苦しい局面はこれから」と述べているように、これからの戦局は今までのように順調にいくとは限らないし、このところの反発で発射台が高くなって市場の脆弱性は高まっている。調整が生ずる可能性も高まろう。

まず株式市場を見ると、ニューヨークの株価はダウで見て過去8営業日連騰して、その間の上げ幅は13%に達した。各地の株式市場の反発も大幅なもので、直近の安値から見て代表的株価指標は、ドイツで23%、フランスで20%、イギリスで17%の各高となっている。この反発は材料としては「開戦に伴う不安感の低下とその後の良好な戦況」ということになる。しかし、こうした相場動向は、それ以前の下げに対する自律調整の側面も強かった。

次にドルは、特に対ユーロでの反発が大きい。ユーロは1.1ドルに乗るところまで行ったが、先週末には1.059ドルまで落ちた。ドルは対円でも上昇している。筆者がこの文章を書いている時点でのドル・円は121円台の前半だが、先週末のニューヨークの引けは121円台の後半だった。また一時バレル40ドルに接近していた石油価格も先週末には27ドル台に落ちた。

今週はこうした傾向が続くかどうか焦点だが、筆者としてはそれぞれについてトレンドの中断、ないしは一部での逆転という事態が起きるのではないかと見ている。理由は、一つにはアメリカ、イギリス軍の進軍がこれまでは順調だったのは確かとして、バグダッドに接近する中で戦局は市場にとって「聞くに心地よいもの」でなくなる可能性があること。既に「(米英軍が)制圧した」と報道された街で改めてイラク軍が反撃に出たことが明らかになったり、米英軍の死傷者が増えている兆候が見える。

第二に、相場の10数%から大きな場合では20数%まで株価・ドル反騰、原油相場反落するなかで、相場水準の調整が既にかなり進んだと思われること。これから相場を同じ方向に引き続き動かすには、非常に大きな材料が必要である。しかし、軍の展開から目を

経済環境に移せば、今のドル高・株高を持続するに値する材料はそれほど見当たらない。

第三に、今週中に米英軍がバグダッドを包囲するのは間違いないとして、その後の展開が読めないこと。アメリカとしては市街戦を避けたいでしょう。しかし、避けてその後どうするのか。これが見えない。イラク南部の街でも制圧した、市民に歓迎されていると思われる場所で、イラク兵による待ち伏せ攻撃に遭っている。一部でベトナム化の兆しも見える。バグダッド攻略に時間がかかれば、この傾向は高まるだろう。

今週の主な予定は以下の通りです。

3月24日(月)	2月貿易統計 アトランタ連銀ゲイン総裁講演
3月25日(火)	経済諮問会議 米3月コンファレンスボード消費者信頼感指数
3月26日(水)	2003年度予算成立へ 米2月耐久財受注 米2月新築住宅販売 北朝鮮最高人民会議
3月27日(木)	米第4四半期GDP(確報) 米第4四半期個人消費(確報) パウエル国務長官と韓国外相が会談
3月28日(金)	2月労働力調査 2月家計調査 3月都区部・2月全国消費者物価 米2月個人所得・支出 米3月ミシガン大消費者信頼感指数(確報)

既にしたが、金融市場にとっても今週最大の焦点は「バグダッド攻防」だ。そこでこの戦争が短期で終わるのか、長期になるのかが分かる。長期に及びそうになれば、一転して株安、ドル安、原油高に戻る可能性がある。

米英軍の作戦はバグダッド包囲までは非常に明確で、確かにその通りに進展している。しかし、接近戦になったときにどういう戦いをするのか、最終的にフセインとその息子達をどうやって捕捉するのかなど、戦略が突然曖昧になる。しかしここが一番重要なのだ。膠着状態になれば、市場は堪忍袋の緒を切らず。また膠着すれば、各地でゲリラ的な対英米軍攻撃が発生しよう。

イラクの戦後処理はもっと難しい。フランスは「国連しかその権威はない」と言っているが、アメリカは長ければ2年にもわたって軍政を敷くと言っている。イギリスも戦後処理に関しては素早く国連に任せたい意向のようで、この面で米英の足並みは揃っていない。

もっと言えば、常識を持って見ればアメリカが言うような「イラクの民主化」が簡単に出来るとは容易に思えない。これまでの株高、ドル高、原油安にもかかわらず、問題は山積している。

それにしても、数の上では圧倒的にアメリカ軍兵員より少ないのに、あれやこれやでイギリス兵の死傷が極端に多い。イギリス軍のトルネード戦闘機がアメリカ軍のパトリオットによって撃ち落とされるという事件も起きている。アフガニスタンの時にも言われたことだが、実はイギリス軍はアメリカ軍にとってある意味で「お荷物」との説がある。訓練不足もそうだが、圧倒的にハイテク化されたアメリカ軍のシステムにイギリス軍がうまく入れない、という問題があるらしい。

パトリオットにトルネードが撃ち落とされた事件はその象徴だろう。恐らく防空認識システムで、このトルネードは「未確認物体」と識別されたに違いない。システムの統合が行われていたら、そういう問題は起きなかったはずだ。今後もこうしたイギリス軍の劣化は問題となるだろう。であるからして、ブレア首相が「我々はイギリス軍の技能と戦意に高い信頼を置いている」と述べている。しかし、実際のところはブレアの胸の内は苦しいのではないか。

《 have a nice week 》

今週はちょっと短めで、最近長いのが続いてきたので。週末はいかがでしたか。3連休で、私も法事があって土曜日は諏訪に行きましたが、旅行者が多かった。これから、桜が咲き、連休に入るともっと旅行者が増えるのではないのでしょうか。

諏訪では祖母の実家の法事に出たのですが、実に懐かしいものを発見しました。それは曾おばあさんのカラー写真。もう50年近い月日が立っているもので、むろんセピアになっていますが、それでも私も3～6才の時に頻繁に会って鮮明に覚えているだけに懐かしかった。さっそくスキャナーで読み取って、サイトに入れました。一度デジタル化しておくと、あとなんとでもなりますから。

それにしても、なつかしい古い写真はほっておくと直ぐに劣化する。これからはビデオテープも含めて、機会を見ては徐々にデジタル化しておこうと思っています。最近ではVHSテープ50本を25枚のDVDディスクに移植する作業をしていて、約半分のデジタル化に成功しました。部屋も綺麗になって良い。

それでは、皆様には良い一週間をお過ごし下さい。

《当「ニュース」は、住信基礎研究所主席研究員の伊藤（E-mail ycaster@gol.com）が作成したものです。許可なき複製、転送、引用はご遠慮下さい。また内容は表記日時に作成された当面の分析・見通しで一つの見方を示したものであり、売買を推奨するものではありません。最終的な判断は、御自身で下されますようお願い申し上げます》